14　　美しい女の正体　　　読解のつぼ①　文脈から助動詞の意味を捉える

男これを見るに、さらに来し方行く末も覚えず、「かき乗せて行かばや」と、落ちかかりぬべくあはれに思へども、「ここにかかる者のあるべきさまなＡければ、これは鬼アなんめり」とて、「過ぎイなむ」とひとへに思ひなして、目をふさぎて走り打ちて通るを、この女、「今やもの言ひかくる」と待ちＢけるに、無音に過ぐれば、「や、彼の主。などかいとなさけなくては過ぎ給ふ。あさましく思ひかけウぬところに人の棄てて行きたるなり。人里までⅠ率ておはせ」と言ふをも聞きはてず、頭身の毛太るやうにおぼえＣければ、馬をかき早めて、飛ぶがエごとくに行くを、この女、「あななさけな」と言ふ声、地を響かすばかりなり。立ち走りて来たれば、「さればよ」と思ふに、「観音、助け給へ」と念じてあさましくとき馬を鞭を打ちて馳すれば、鬼走りかかりて馬の尻に手を打ちかけ打ちかけ引きつるに、油を塗りたれば、引き外し引き外ししてⅡえとらへず。【本文チェック】

①　ア～エの助動詞の、文法的意味を〔　〕に書きなさい。

ア〔　　　　　　　〕　イ〔　　　　　　　〕

ウ〔　　　　　　　〕　エ〔　　　　　　　〕

②□Ａ～Ｃ「けれ」「ける」のうち、品詞の異なるものを一つ選んで記号に〇をつけなさい。

　Ａ・Ｂ・Ｃ

③傍線部Ⅰ・Ⅱを現代語訳し、（　）に書きなさい。

Ⅰ（　　　　　　　　　　　　）

Ⅱ（　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　ひとへに〔３〕　 　①（　　　　　　　）

②まったく

２　なさけなし〔８〕 　①（　　　　　）

②風情がない

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　ほととぎすの声たづねに行かばや。（枕草子）

ア　（行こ）う　　　イ　（行っ）てほしい

ウ　（行き）たい　　エ　（行き）なさい

（　　　）

２　人にわづらはしとおぼえたる人の、国々治めたりけるが、（栄花物語）

ア　思われ　　　イ　うわさされ

ウ　覚えられ　　エ　期待され

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　ながらへばまたこのごろやしのばれむ（新古今集）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　若きものどもは、え見知らじ。　（大鏡）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　妻といふものこそ、男の持つまじきものなれ。　（徒然草）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

問４　次の傍線部の説明として適当なものを、後から選べ。

１　散りぬとも香をだに残せ梅の花恋しき時の思ひ出にせむ（古今集）

２　ものひとこと言ひおくべきことありけり。　（竹取物語）

３　返りごといかがすべからむ。　（枕草子）

４　潮満ちぬ。風も吹きぬべし。　（土佐日記）

ア　意志　　イ　推量　　ウ　適当　　エ　当然

１（　　　）　　２（　　　）　　３（　　　）　　４（　　　）

問５　次の傍線部を現代語訳せよ。

１　大将いとま申して、福原へこそ帰られけれ。（平家物語）

（　　　　　　　　　　　　）

２　わが身は女なりとも、の手にはかかるまじ。（平家物語）

（　　　　　　　　　　　　）

３　重ねて問はせたまはば、いかが申さむ。　（徒然草）

（　　　　　　　　　　　　）

【探究】調べてみよう

問６　男は最初は女にかれていたが、思慮深い判断をして、見事危機を回避している。このように慎重に物事を考えることを表すことわざや慣用句について、調べて挙げてみよう。

〔

〕

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝断定　イ＝強意　ウ＝打消　エ＝比況

②　Ａ

③　Ⅰ＝お連れください　Ⅱ＝捕まえることができない

問１　１＝ひたすらに　２＝つれない

問２　１＝ウ　２＝ア

問３　１＝自発・未然形　２＝打消推量・終止形　３＝打消適当・連体形

問４　１＝ア　２＝エ　３＝ウ　４＝イ

問５　１＝お帰りになった　２＝かからないつもりだ

　　　３＝問いなさるならば

問６　観点　「石橋をいて渡る」「転ばぬ先の」「用心に怪我なし」などが挙げられる。ことわざや慣用句の辞書・辞典類で探してみるとよい。

【現代語訳】

問２　１　ほととぎすの声を聞きに行きたい。

２　人に気がおけると思われていた人が、諸国を治めていたが、

問３　１　生き長らえるならば、また同じように、このごろが思い慕われるのだろうか。

２　年若い者たちでは、よく見分けられないだろう。

３　妻というものこそ、男が持たない方がよいものだよ。

問４　１　たとえ散ってしまうとしても、せめて香りだけでも残しておくれ、梅の花よ。恋しいと思うときの思い出にしよう。

２　何かひとこと言っておくべきことがあった。

３　返事はどのようにするのがよいだろうか。

４　潮が満ちた。風もきっと吹きだすだろう。

問５　１　大将は別れを申し上げて、福原へお帰りになった。

２　我が身は女であっても、敵の手にはかからないつもりだ。

３　重ねて問いなさるならば、どのように申し上げようか。